

3 地域と子どもをつなぐ学生の学び — キッズボランティア「どろんこ隊☆」の実践報告 —

岩手県立大学社会福祉学部 准教授 井上孝之

該当する
原則

原則 9：持続可能性を推進する

1. はじめに

キッズボランティアサークル「どろんこ隊☆」は、2024年に新たに2つの活動を立ち上げた。1つは、学習支援と居場所づくりを目的とする「どろんこ隊☆ミライ」による「タキ木の広場」、もう1つは、子ども食堂の企画・運営および支援を行う「どろんこ隊☆もぐもぐ食堂」である。

いずれも、地域の子どもの学びや生活を支えることを目的としたボランティア活動であり、学生が自らの問題意識に基づいて企画・実施を行っている。顧問は伴走的に支援しているが、活動の中心は学生にあり、主体的かつ自律的に展開されている。

これらの活動は、アカデミック・インパクトの原則9：持続可能性の推進、に加え、原則1：貧困の根絶、原則3：教育機会の拡充、原則10：地域との関わりの推進、とも関係しており、教育的支援や居場所づくりを通じて、児童期の福祉的ニーズに寄り添うとともに、活動に関わる学生自身の学びも深化する、双方向的な実践の場となっている。

そこで、本稿では、2020年以降継続してきた「どろんこ隊☆ミライ」による「アイーナみんなの学習室」の活動を概観し、あわせて上述の2つの新たな取組について、サークル顧問の立場から報告する。

2. 活動の経過

2004年、保育学生の自主的な関心から発足した「どろんこ隊☆」は、遊び・子育て支援活動を継続している。2019年度の講義における問いかけを契機として、学生の主体的対話から「どろんこ隊☆ミライ」が創設され、助成金等を活用した実践が展開されている。

(1) アイーナみんなの学習室（以下、「学習室」）

「学習室」は、盛岡駅に隣接するサテライトキャンパス（通称：アイーナキャンパス）を会場として、主に小中学生を対象に学習支援を行っているものである。開室は毎週土曜日の午後とし、安定的な運営を継続している。

本活動は、2020年度に「盛岡市子ども未来基金」の助成対象に採択されたことを契機に開始された。以後、2021年度・2022年度にも同基金より継続支援を受け、主に学生の交通費（定額）および教材費に助成金を活用している。さらに2023年度には、「東北ろうきん《未来へのタスキ》」の助成に採択され、2025年度までの長期的支援を得る見通しが立った。

利用者は中学生が多く、学生との交流の中で会話や学習に取り組む様子からは、子どもたちにとって本活動が学習の場であると同時に、安心できる居場所＝サードプレイスとして機能していることがうかがえる。また、活動中に保護者が買い物に出かけたり、読書などで時間を過ごしたりする姿も見られ、保護者にとってのレスパイト的機能も果たしている。

2024年後半からは、顧問の友人の子ども食堂運営者との連携により、第2土曜日は夕食の提供を組み合わせた取組も始まっている。

これまでの利用者の進学実績は次のとおりである。

- ・2021年度：県立高校 1名 合格
- ・2022年度：県立高校 1名 合格
- ・2023年度：私立中学校 1名、県立高校 1名 合格
- ・2024年度：私立高校 2名 合格

(2) タキ木の広場（以下、「広場」）

「広場」は、滝沢キャンパスに隣接する施設「滝沢市IPUイノベーションセンター」のホールを会場として実施している、学習支援および居場所支援の取り組みである。滝沢市内の中学校において部活動が行われていない月曜日の放課後に開室しており、主に中学生を対象としている。

この取組は、学生から「土曜の午後はアルバイトのため参加が難しいが、授業の合間であれば支援活動が可能である」との声が寄せられたことをきっかけに構想され



利用者同士の学び合いの様子

たものである。一方で、放課後の生徒の安全や負担に配慮したい学校側の意向と、支援の場を設けたい学生側の思いとの間で調整が必要となり、市教育委員会や「NPO法人イノベブリッジたきざわ」の協力を得ながら、約3年の準備期間を経て開室に至った。

本活動は、キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」の助成を受けて運営されている。

当初は近隣の中学生の利用を想定していたが、実際には、年下のきょうだいがいるため自宅では学習に集中しにくい中学生を、保護者が送迎し利用させるといったケースも見られた。「広場」まで自宅から車で15分ほどかかるものの、保護者はその間に買い物などの時間を確保し、中学生は静かな環境で学習に取り組むことができる。学生による支援体制に対して、感謝の声も寄せられている。

2024年は年間10回の「広場」を開室し、延べ5名の利用があった。現時点では利用者数は限定的であるが、今後は学校や地域との連携を深め、周知や参加促進に向けた工夫を重ねていく予定である。

(3) どろんこ隊☆もぐもぐ食堂（以下、「食堂」）



滝沢市中学生へのチラシ（仮案）

「食堂」は、2022年度の講義において、子どもの貧困や孤立、格差、食の不安といった社会的課題を扱ったことをきっかけに、問題意識を深めた学生たちが構想を重ね、2024年度に立ち上げた、どろんこ隊☆の子ども食堂部門である。

現在は、「学習室」における夕食提供のための弁当作りと、矢巾町で行われている子ども食堂の支援活動の、2本柱で実施している。



アイーナキャンパスでのサンドウィッチ作り

アイーナでの調理には制限があるため、調理は、いわて生協の調理室を使用し、完成した弁当を「学習室」に運んで提供している。



「学習室」後の夕食会

一方、矢巾町の子ども食堂では、未就学児から高校生まで幅広い年齢層を対象とした場において、調理、配膳、見守り、交流支援などを学生が担っている。

食を通じた支援のあり方を学生自らが模索しながら、実践と振り返りを重ねる取組であり、学習支援と並行して子どもたちの生活に寄り添う、新たな活動として位置づけられている。



矢巾町子ども食堂でのクリスマス会

3 今後の活動

2025年度には、「食堂」が新たな外部助成を受け、より安定的な運営体制の構築が進みつつある。

今後は、地域との信頼関係を一層深めるとともに、活動の可視化と後継メンバーへの円滑な引き継ぎを図りながら、持続可能な学生主体の地域連携モデルとしての実践をさらに深化させていく。